

平成 20 年度花壇管理状況

土井環*・藤本昭一

平成 20 年度は、昨年に引き続き、花壇花材に新規の 3 品目を加え植栽を行った。また、部分的にタイルを敷いてデザインに変化をつけた。管理面では、昨年同様、かん水チューブを使用した。表 1 に花壇植物植栽状況を、図 1 ～ 7 に各花壇の植栽デザインを示した。

新規品目について

5 月上旬から 8 月下旬頃まで観賞可能という条件で以下の 3 品目を導入した。

アンゲロニア セレナ（ゴマノハグサ科）

平成 18、19 年度「ガーデニングおすすめ品種展」で種苗会社から提供を受け試作したところ、従来のアンゲロニアに比べてコンパクトな草姿で、高温多湿の環境にも強く、長期間観賞できたため、今年度から花壇での植栽を開始した。5 月中旬に 3 号ポットを 20cm 間隔で植えつけた。短期間でボリュームが出て美しい状態となったが、7 月中旬には込み合うようになり、8 月中旬には内部が蒸れて刈れ上がり、花も少なくなった。8 月下旬の抜き取り時の草丈は、40 ～ 50cm であった。芝生北花壇では、7 月下旬に株元から 10cm の位置で切り戻した。8 月中旬には葉が茂り、9 月上旬には美しく咲き始めた。しかし、切り戻すことで枝数が増えたため、ますます込み合うようになり、9 月下旬には抜き取った。品種は、ラベンダーピンクとパープルを用いたが、ラベンダーピンクは、パープルに比べ枝が細く、株の内部が蒸れやすかった。品種による若干の差はあるが、今後は、株間を 20cm より広めにとることが必要と思われる。



写真 1. アンゲロニア セレナ

クサハナビ（スベリヒユ科）

タリナム属の植物で、乾燥に強いことから、昨年

から植栽を開始したハナアロエとともに小花壇に植栽した。25cm 間隔で植栽したが、ハナアロエに比べて株張りが悪く、また花が夕方近くからパラパラ開花する程度で、日中は、色目が出ず、花壇が少し寂しい感じがした。フォーマルなデザインの花壇では、使用しにくいと思われた。水やりなどの管理は一切必要なかった。

ビンカ トコナツ（キョウチクトウ科）

数年前から園内で試作しており、今年度から花壇に植栽した。従来のビンカは過湿に弱く、梅雨時期に立枯病が発生して枯れることがあったが、トコナツは枯れこむことなく、また耐乾性、耐暑性もあり、夏花壇で休まず花を咲かせた。最大の特長は、草丈が 70 ～ 80cm となることで、コンパクトな草姿の花壇用花材が多いなか、ボリューム感が出せることである。今年のゲリラ豪雨では、かなり叩かれ、茎が暴れたようになったが、8 月下旬の抜き取りまで順調に生育した。トコナツは分枝が少ないため、倒れにくいようである。今年度はパープルとライラックの 2 品種を植え付けたが、ライラックの方が茎がしっかりしているように思われた。芝生北花壇では、7 月下旬に株元 15cm 程度まで切り戻した。3 週間程度で花が咲き始めたが、10 月下旬からは花が少なくなり、11 月中旬に抜き取った。本種は、多肥料を好み、肥料切れになると葉が黄化しやすいため、展示期間中は 1 ケ月ごとに緩効性肥料を与え続け順調な生育を維持した。



写真 2. ビンカ トコナツ

植栽デザイン

今年度は、大花壇・芝生北花壇に部分的にタイルを敷いて、花壇のアクセントとした（写真 3）。大花壇は従来より中央に銅像があり、花壇のポイントとなっているが、前面にタイルを敷くことで、銅像をより生かすことができた。また日常管理も楽であった。全体のデザインは、昨年度が、少しシャープになりすぎたため、あまり直線が強調されないようにした。また新規の植物は、ロングランでの栽培となるため、展示途中で生育不良になることも考え、

* 現（財）広島市農林水産振興センター

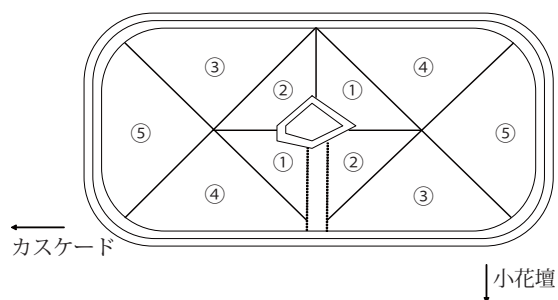


図 1-1. 大花壇 (初夏)

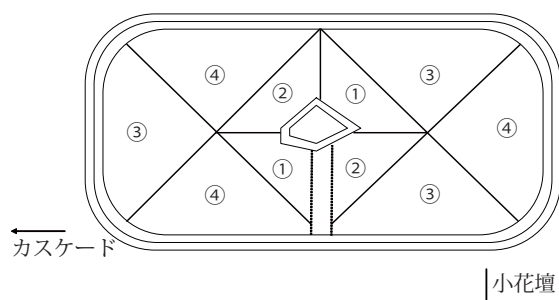


図 1-2. 大花壇 (夏)

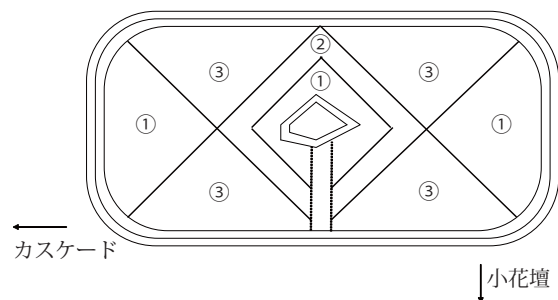


図 1-3. 大花壇 (秋)

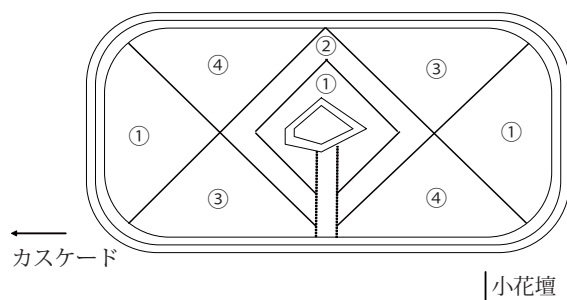


図 1-4. 大花壇 (冬)

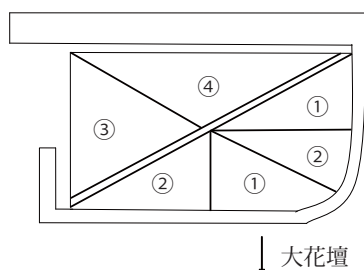


図 2-1. 中花壇 (初夏・夏)

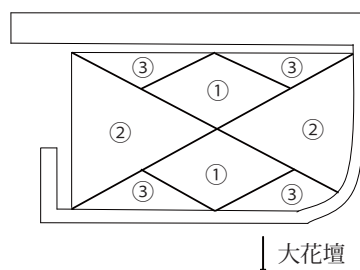


図 2-2. 中花壇 (秋・冬)

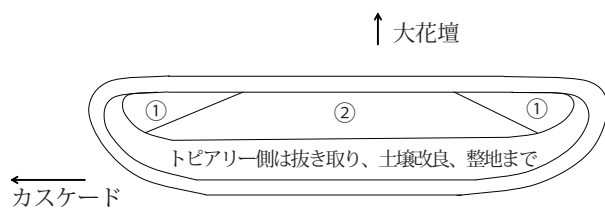


図 3-1. 小花壇 (初夏)

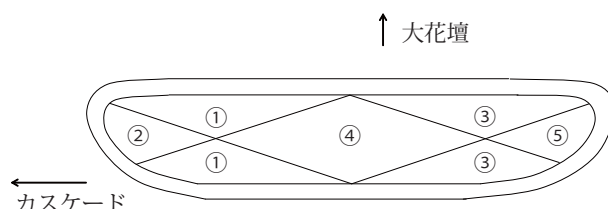


図 3-2. 小花壇 (秋・冬)

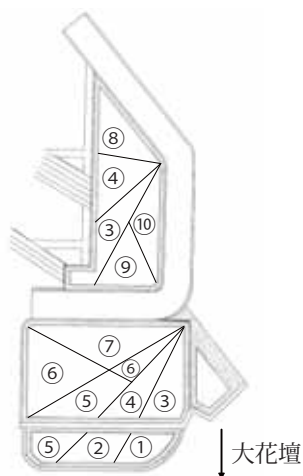


図 4-1. カスケード前花壇 (初夏・夏)

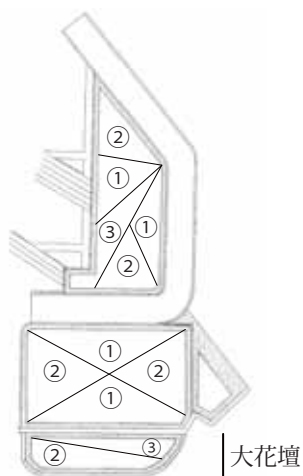


図 4-2. カスケード前花壇 (秋)

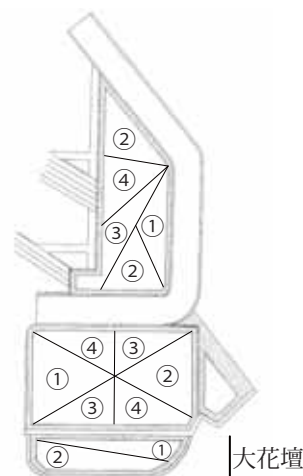


図 4-3. カスケード前花壇 (冬)

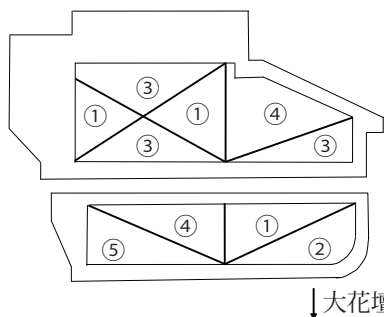


図 5-1. カスケード池下花壇 (初夏・夏)

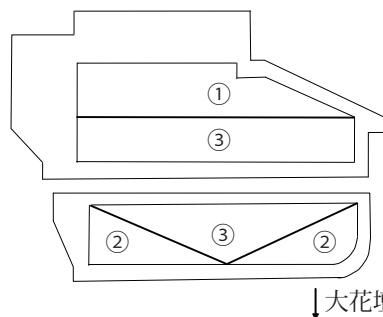


図 5-2. カスケード池下花壇 (秋・冬)

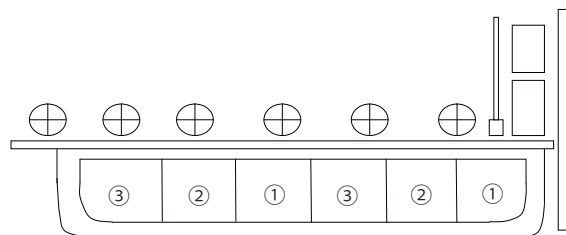


図 6. 大温室横花壇 (冬)

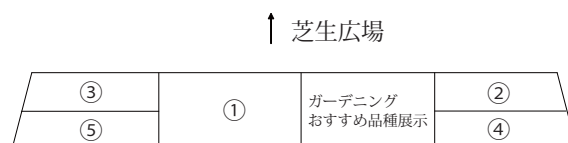


図 7-1. 芝生北花壇 (初夏)



図 7-2. 芝生北花壇 (冬)

表 1. 平成 20 年度花壇植物植栽状況

花壇名	初夏	夏	秋	冬	早春
大花壇	ピンカ (トコナツ) パープル① ピンカ (トコナツ) ライラック② ベゴニア・センパフローレンス 桃③ ベゴニア・センパフローレンス コリウス 桃紅緑③ ベゴニア・センパフローレンス コリウス 白緑④ (5月9日植え付け) 赤⑤	コリウス 桃紅緑③ コリウス 白緑④ (7月11日植え付け)	サルビア・ファリナセア 青① サルビア・ファリナセア 白② サルビア・スプレンドゥス 赤③ (8月29日植え付け)	ハボタン (丸葉) 青① ハボタン (丸葉) 白② バンジー 赤③ (11月7日植え付け)	アイランドボビー 赤① アイランドボビー 白② アイランドボビー 黄③ アイランドボビー 黄④ (2月20日植え付け)
中花壇	ベゴニア・センパフローレンス 桃① ベゴニア・センパフローレンス 赤② ピンカ トコナツ ライラック③ ピンカ トコナツ ハーブ④ (5月9日植え付け)	コリウス 桃紅緑① コリウス 白緑② (7月11日植え付け)	サルビア・ファリナセア 青① サルビア・スプレンドゥス 赤② サルビア・ファリナセア 白③ (8月29日植え付け)	バンジー 青① バンジー 赤② デージー 白③ (11月7日植え付け)	黄① 黄② 薄桃③ (2月20日植え付け)
小花壇	クサハナビ ① ハナアロエ ② ツルレイシ (ゴーヤ) ③ (5月27日植え付け)	(7月11日植え付け)	サルビア・スプレンドゥス 赤①③ サルビア・ファリナセア 青②④⑤ (9月19日植え付け)	バンジー 青① バンジー 赤② ハボタン (丸葉) 白③ (11月14日植え付け)	黄①⑤ 黄②③ 赤④ アイランドボビー 混合④ (2月20日植え付け)
カスケード前	アンゲロニア セレナ ラベンダーピンク① アンゲロニア セレナ パープル② ピンカ トコナツ パープル③ ピンカ トコナツ ライラック④ ベゴニア・センパフローレンス 白⑤⑨ ベゴニア・センパフローレンス 桃⑥⑩ ベゴニア・センパフローレンス 赤⑦⑧ (5月16日植え付け)	コリウス 白緑⑤⑦⑩ コリウス 桃紅緑⑥⑧⑨ (7月11日植え付け)	サルビア・ファリナセア 青① サルビア・スプレンドゥス 赤② サルビア・ファリナセア 白⑧ (8月29日植え付け)	バンジー 青① バンジー 赤② ハボタン (丸葉) 白⑧ ハボタン (丸葉) 白④ (11月7日植え付け)	黄① 黄② 赤③ アイランドボビー 混合③ アイランドボビー 混合④ (2月20日植え付け)
カスケード池下	ベゴニア・センパフローレンス 赤①⑤ ベゴニア・センパフローレンス 桃②④ ベゴニア・センパフローレンス 白③ (5月9日植え付け)	コリウス 白緑①④ コリウス 桃紅緑②③⑤ (7月11日植え付け)	サルビア・ファリナセア 青① サルビア・ファリナセア 白② サルビア・スプレンドゥス 赤③ (8月29日植え付け)	バンジー 青① デージー 白② バンジー 赤③ (11月7日植え付け)	黄① 薄桃② 黄③ (2月20日植え付け)
大温室横	メカルドニア イエロークロサイト (6月9日植え付け) アブチロン他 (18品目 71品種) (6月9日植え付け)			バンジー 黄① バンジー 桃② バンジー 青③ (11月14日植え付け)	
芝生北	サンパチェンス (4品種) (5月16日植え付け) ダイコンドラ (5月28日は種)			バンジー 黄① バンジー 桃② バンジー 青③ (11月14日植え付け)	
	サンパチェンス (3品種) ピンカ トコナツ ライラック① ピンカ トコナツ パープル② アンゲロニア セレナ パープル④ アンゲロニア セレナ ラベンダーピンク⑤ (5月16日植え付け)	(7月11日植え付け)	サルビア・ファリナセア 青・白④ サルビア・ファリナセア 青・白⑤ (9月22日植え付け)		

大面積で用いず、管理がしやすい場所に配した。このため、部分的にはアンバランスな所もあったが、全体で見るとあまり気にならなかった。当初のデザインも大切であるが、管理が行き届き良好な生育をしていることが一番大切であると思われる。



写真 3. 大花壇の銅像前に設置したタイル

ガーデニングおすすめ品種展示花壇の継続設置

昨年度に引き続き、大温室横花壇・芝生北花壇で、種苗会社 3 社と共催で、「ガーデニングおすすめ品種展示」を行った。各種苗会社の最新品目とそれらの生育状態が初夏から継続して観察できる等、家庭園芸の参考になることから来園者に好評であった。近年は、葉物に注目する来園者も増えており、購入先を尋ねられることも多々あった。

栽培管理状況

各植物の生育状況は表 2 のとおりである。

パンジー（H 19 年度植え付け分）：ゴールデンウィーク明けの植え替えまで良好な状態を保つため、4 月中旬にすべての花壇において花がら取りを行った。灰色かび病が発生していたので、ゲッター水和剤（希釈倍率 1000 倍）を散布した。ゴールデンウィークを過ぎると、一気に傷みが進んだ。

表 2. 平成 20 年度花壇植物生育状況

植物名	生育状況	評価
ベゴニア・センパフローレンス	期間を通じて良好だが一部に茎腐病が発生	○
コリウス	品種による生育差があり 今後も品種選定が必要	△
ハナアロエ	梅雨時期に株が蒸れる	○
ツルレイシ	9 月に入ると葉が黄変する	○
サンパチェンス	生育良好だが一部に白絹病が発生	○
サルビア	猛暑のため活着まで時間がかかる	○
クサハナビ	乾燥に強いがハナアロエより株張が悪く、開花状況も地味	△
ピンカ・トコナツ	梅雨期の立枯病に強く耐乾、耐暑性に優れる	◎
アンゲロニア・セレナ	短期間でボリュームが出るが、蒸れて枯れ上がりやすい	○
パンジー	開花数、株立ちともに良好	○
ハボタン	白葉に軟腐病発生	△
デージー	期間を通じて良好だが一部に乾燥による傷みがみられた	○
アイスランドポピー	生育、株立ちともに良好 華やかさに優れる	◎

◎：有望、○：十分使用可、△：時期、場所を選べば使用可、×：使用不可

ベゴニア・センパフローレンス：中花壇で茎腐病が発生した。リゾレックス水和剤（希釈倍率 1000 倍）を散布するとともに、腐った茎はすべて除去し、株元からの萌芽の発生を促したが、7 月上旬の抜き取り時まで回復しなかった。

コリウス ‘ハイウェイホワイト’ ‘ハイウェイローズ’：‘ハイウェイホワイト’ は、ここ数年用いた白緑の品種のなかでは、最も管理が容易で、発色も良かった。反対にローズは植え付け初期から花穂が上がりはじめ、2 週間後にすべて花穂を取り除いたが、その後も花が上がり続け、その影響か、生育も悪かった。コリウスは今後も、品種を検討する必要がある。抜き取り時の草丈は、ホワイトが 60 ～ 70cm で、ローズが 40 ～ 50cm であった。

サルビア・スプレンドENS、サルビア・ファリナセア：8 月下旬に植え付けた。スプレンドENSは、苗の段階から生育状態にむらがあり、順調に生育しない株は、9 月下旬に花穂を切り、新葉の発生を促した。しかしなかなか回復せず、10 月中旬から液肥を 2 回散布し、下旬にやっと回復した。生育の回復には水の補給だけでなく即効性の追肥が必要と思われる。なお、かん水チューブは 11 月に入って撤去した。

パンジー ‘マトリックスオレンジ’ ‘マトリックスイエロー’ ‘マトリックスローズ’ アリルブルー：2 月下旬と 3 月中旬に花がら取りを行った。

ハボタン ‘白はと’ ‘紅はと’：1 月下旬に ‘白はと’ に軟腐病が発生した。症状が進行したため、2 月に入って、大花壇はすべて、カスケード前花壇は部分的に抜き取った。例年、白が先に傷むので、デザインする段階から、植え付け面積を狭め、抜き取った場合も違和感が生じない場所に配置しておいた。

デージー ‘アーリーボンボネットローズ’：暖冬であったため、寒さで傷むことなく順調に生育した。

アイスランドポピー‘ゲルフォルトジャイアント’：ハボタンが傷んだため、植え付けを早めて2月中旬とした。植え付け時にはつぼみを持っていなかったが、3月下旬から少しずつ花が上がってきた。

その他：大温室横花壇と芝生北花壇は5月下旬から11月下旬までの長期間の植栽となったため、部分的に生育不良等が生じたので、9月にサルビア、プレクトランサス等を補植した。

視していたが、ロングランの植物や草丈のある植物を導入し管理のしやすさも考慮して、デザインに反映させたい。

また、カンナやオリヅルランなどは、夏花壇の品目としては一般的ではあるが、斑入りや銅葉など葉色に特長があり、組み合わせ方によっては、花壇作りのポイントになるので来園者のガーデニングの参考になるよう積極的に導入する。

今後の取り組み

これまでは、花壇の設計を行う際、デザインを重



園内気象記録

平成21年1月1日～12月31日

	気温（℃）				降水量（mm）	
	月最高	月最低	平均	過去平均*	2009年	過去平均**
1月	12.9	-2.9	4.3	4.7	46	55
2月	20.6	-0.5	6.9	5	111	68
3月	20.1	-0.4	8.5	8.3	117	142
4月	25.8	1.5	13.9	13.7	93	144
5月	29.7	8.7	18.7	18.2	38	190
6月	31.5	11.7	21.7	22.2	261	259
7月	32.7	17.3	24.6	25.8	526	229
8月	34.8	17	26.5	27.5	55	157
9月	33.4	13.7	23.1	23.6	42	193
10月	27.1	7.9	17.1	17.5	50	104
11月	22.7	2	11.6	12.1	174	73
12月	17.2	-2.5	6.3	6.9	46	48
年			15.3	15.5	1559	1662

*：昭和53年から平成20年の平均気温

**：昭和53年から平成20年の平均降水量

（平成14年～18年の降水量は欠測）

<参 考> 本年最高気温記録日 8月8日 34.8℃
 本年最低気温記録日 1月24日 -2.9℃
 本年最大雨量記録日 7月20日 141mm

（井上尚子 記）